

学 校 教 育 目 標	温かい学校 喜びあふれる学校
目 指 す 学 校 像	潤いと活気と感動のあふれる学校を目指して
重 点 目 標	1 主体的に活動し知性と創造性を高める生徒の具現化 2 学びの自律と個別最適化の実現 3 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進 4 学校運営に係る適正な施設管理と公金管理 5 キャリアステージに応じた資質能力の向上とバランスの取れたワークライフマネジメント

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学びの質の向上に
関する取組

心の子どもの発達や
サポートに関する取組

地域とともにある
学校づくりに関する取組

教育環境の整備に
関する取組

教職員のキャリア形成に
関する取組

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和8年3月2日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○全国学力・学習状況調査の教科別調査において全国、市平均と比べ下回っている。 ○「ICT機器の活用状況」学びの指標では、令和6・7年度共に2.98に留まっている。 ○授業に真剣に取り組む生徒は多い。反面、授業内の発言等は消極的な場面がみられる。 ●基礎的・基本的な知識技能の向上を図る必要がある。 ●学力の定着や個人差が大きい。 ●放課後学習会等で個に応じた課題克服の場を設定する必要がある。	・デジタル学習基盤を活用した学びに向けた授業改善	①デジタル学習基盤を活用した授業改善のための講師を招き研修会を実施。 ②教科会を通してデジタル学習基盤を利用した授業実践に向けて研究を進め、研究授業を行う。 ③管理職が授業参観し、指導助言する。	①外部講師を招聘し、年間2回以上の研修会を実施することができたか。 ②教科会を通して研究を進め、研究授業を行うことができたか。 ③学びの指標アンケートによる「主体的な学び」「探究的な学び」「ICTの活用」の項目が向上したか。					
		・個別最適な学びの実践	①Skype、Canva等の活用場面を増やし、それぞれの課題に応じた学びを展開する。 ②カリマネデザインマップを活用し、本校の実態に応じて改善しながら授業をデザインする。	①授業でのPC、タブレットなどの活用状況が向上したか。 ②カリマネデザインマップを活用し、教科横断的な視点を持って授業をデザインすることができたか。					
2	○学校評価生徒アンケート「充実した学校生活を送っていますか」のA評価は59%であった。 ○学校評価生徒アンケート「先生方は悩みや相談に乗ってくれますか」のA評価は68%であった。 ○日常の観察、定期的なアンケートの活用等によって早期発見、情報共有ができ、組織的な対応ができています。 ●スクールダッシュボードの「おはようメーター」の利用率は曜日により多少差はあるものの7年度は7割程度まで上がった。今年度からは授業の振り返り等も含めさらに有効活用する必要がある。	・生徒の主体的な活動を通した常態的・先行的な生徒指導の実践	①生徒主体の生徒会活動、学校行事、（体育祭、校外学習、修学旅行、合唱コンクール）の実施。 ②生活のきまり検討委員会を中心とした、当事者意識を持って取り組む生活のきまりの見直し。	①学校評価生徒アンケート「充実した学校生活を送っていますか」のA評価が前年度以上となったか。 ②「学校の規則」に関する学校評価生徒アンケートのA評価が前年度以上となったか。					
		・細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実	①登校状況、健康観察の実施とおはようメーター、心と生活のアンケート結果の活用。 ②生徒指導・教育相談委員会の情報共有、保健室からの生徒に関する状況の確認を素早く行う。	①日々の生徒の変化を見逃さず、声掛け・面談の実施につなげることができたか。 ②学校評価生徒アンケートの「先生方は悩みや相談にのってくれますか」のA評価が前年度以上となったか。					
3	○学校運営協議会において「生徒に身につけさせたい力」「柏陽中学校の現状について」のテーマについて熟議を行っている。 ○地域の方々に登下校のパトロールや見守りを継続して行っている。地域の子どものために、温かく尽力していただいている。 ●学校運営協議会の場で、目指す生徒像や身につけさせたい力について熟議し、その実現に向けて学校・家庭・地域の協働を図る。 ●地域ボランティアやイベントに生徒が主体的に参加できるように促す。	・目指す生徒の育成に向けた学校・家庭・地域が協働で行う取組の整理と実施	①学校運営協議会を年3回実施し、目指す生徒像について熟議し、その実現に向けての取組を整理・実施する。 ②生徒が地域のボランティア活動や本校と関連する場所に出向き、様々な取組を行うことで地域に貢献する。	①年間3回の学校運営協議会を開催し、目指す生徒の育成に向けた取組を行うことができたか。 ②生徒が地域に出向いてボランティア活動等に参加することができたか（年間5回以上）。					
		・積極的な情報の収集と発信を通した開かれた学校づくり	①学校ホームページの定期的な更新と毎月の便りの発行等により学校の情報を広く公開する。 ②情報公開や情報発信のため、毎学期2回以上保護者の来校機会を設ける。	①学校評価保護者アンケートにおける情報発信に係るA評価が昨年度以上となったか。 ②毎学期2回以上の保護者来校の機会を設定することができたか。					
4	○体育の水泳授業で、プールの利用において民間に委託することで、熱中症等の心配もなく安心安全な教育活動が行うことができている。 ○市の部活動地域展開モデル校の4年目で、土、日・祝日の活動について、生徒、教員にとってより望ましい形に向けて検証を行っている。 ●樹木伐採、剪定等が優先順や予算等の関係もあり思うように進まない面もある。 ●施設設備や、情報管理等の安全管理について教職員との情報共有を行いながら進めていく体制づくりが必要である。	・安心・安全な教育環境の整備	①経年劣化等による施設等への素早い修繕と月例安全点検を実施する。 ②日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底し、重大事故未然防止に努め、危機管理体制を整える。	①定期点検や日々の安全点検を行い、早期対応に努め、未然防止につなげることができたか。 ②生徒のけがの件数を昨年度より減少させられたか。					
		・ICT機器を利用した安全管理と早期対応	①Teamsチャットによる生徒の欠席、体調不良、遅刻、早退等の状況確認と保護者連絡の徹底。 ②上記以外で保健室来室者やSolaるーむ利用の生徒に関する情報を、Teamsチャット等で把握し早期対応を行う。	①遅刻、早退、欠席者に対する保護者連絡を徹底することができたか。 ②保健室に相談に来た生徒や、教室に入りづらい生徒等に対し、情報共有と早期対応ができたか。					
5	○デジタル学習基盤の活用について講師を招聘して研修を行い、少しずつ効果的な活用に結びついてきている。 ○管理職による面談時等でそれぞれの教職員の実情に合った研修の受講奨励を行い、教員の自己研鑽につながってきている。 ●生徒（保護者）と教職員双方のWell-beingにつなげるために、業務内容の削減すべきところと意欲や能力を高めるために残すことが必要な部分についての検討が行われるべきである。	・教職員の資質向上のための研修への取組	①学校DX推進部を中心にデジタル学習基盤の活用に関する研修をさらに推進し、業務改善につなげる。 ②キャリア段階に応じた研修、新たな資質向上に関する研修の受講奨励を行う。	①ICTを活用した授業実践と研修を通して、生徒一人ひとりに応じた学びの場を創出できたか。 ②キャリア段階に応じた新たな資質向上に関する研修の受講ができたか。					
		・Well-beingにつながる働き方改革	①業務に大きな差が生じないようにする学校全体での体制づくり。 ②会議や教職員それぞれの業務を精選し、業務改善に取り組み働き方改革を推進する。	①業務に大きな差が生じないような体制づくりができたか。 ②自分に適した業務改善に積極的に取り組み、目標達成の実感につなげられたか。					